

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200344		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム本郷		
所在地	美濃加茂市本郷町3丁目20-15		
自己評価作成日	平成25年9月21日	評価結果市町村受理日	平成25年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200344-008&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年10月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人が本郷での生活に満足して頂けますよう、個々に合った興味の持てる制作や気分転換にも繋がる散歩、喫茶店への外出等の機会をより多く設けています。近隣には、保育園、小学校、農林高校などがあり、園児との交流会を定期的に行っています。小学校では運動会などの行事にも招待して頂いたり、農林高校では、園芸福祉の実践交流、野菜、花の苗等の販売等、生徒達との交流や、法人内の事業所との交流等、地域社会との繋がりを積極的に取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は全員が女性で、自立度が高く、活動的である。日常的な散歩や近くの保育園、小学校、農林高校の子ども達と親密な交流を続けている。学校の行事には、常連として招かれ、また事業所の行事にも招いている。利用者との世代間交流は、開設以来継続し、生きる活力になっている。職員は、利用者の自己決定を尊重し、持てる力を引き出しながら、安心して自分らしい暮らしができるように支援している。また、月例のカンファレンス(検討会議)では、職員一人ひとりが課題を提起し、サービスの向上と働く意欲を高めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不 安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービス におおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本郷の理念でもある相手の立場に立ったケアについては常に「その人を知る」を重点とし情報の共有、共通したケアが提供出来るよう毎日の申し送り、月例の職員会議、ユニット毎のカンファレンスを開き全職員が御利用者の思いに沿ったケアが提供出来るよう努めています	理念は、相手の立場に立つことを基本に、家族や地域との関係を大切にすることを掲げている。月例のカンファレンス(事例会議)で理念を確認し、利用者の自立を支え、その人らしい暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の回覧板に本郷たよりを毎月回覧して頂き、本郷の皆様の生活の様子や行事等の案内をして地域の皆様へ本郷への協力、御理解を頂いています。天候により可能な限り散歩に出掛け近隣の公園や沿道での挨拶など地域社会との繋がりを積極的に行っています	事業所の行事は、回覧で地域へ案内し、自治会の行事は、民生委員から伝えてもらっている。近くの保育園児や小中学生、農林高校生との相互交流を継続し、近所とも親しくつきあっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩に出掛けた際には近隣の方への挨拶や話しかけにより御理解、御協力をお願いし、小学校、農林高校の生徒達との交流により認知症高齢者への理解や農林高校生、教師の研修の受け入れ等を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、民生委員、地域包括、介護保険福祉課、エリア長、本郷管理者が参加し隔月に開催し、本郷での生活状況、御利用者状況等を報告させて頂きながら御家族の要望、民生委員からの御意見、行政の情報等を得る事でサービスの向上に繋がっています	運営推進会議は隔月に開催し、運営の取り組みやサービスの状況を報告して、意見を交わしている。同業他社の情報や熱中症対策などを話し合い、意見等は、サービスの向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月行われる地域サービスネットワーク会議に参加し、厚労省、行政の情報や介護保険の改正、他事業所情報等得よう取り組んでいます。毎月利用者状況、待機者情報等の提供により事業所の実情の報告を行っています	事業所の実情や待機者の現状を伝え、協力関係を築いている。行政主催の「地域サービスネットワーク会議」へ毎回参加し、制度の運用や事業者情報を収集し、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修(新人研修、中堅研修、外部研修等)の参加と参加者からの全職員対象の勉強会の開催による職員の知識向上と玄関の施錠では一般家庭と同じ基準で安全な生活を送る事を基準としています	身体拘束は行ってない。職員は、拘束の弊害をよく理解し、定期的に学習をしている。玄関の出入りは、センサーで感知し、安全を優先に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修の参加と参加者からの勉強会の開催により全職員が理解出来るよう努めており、いつでも閲覧できるよう資料の設置をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	認知症介護実践者研修への参加など職員の学ぶ機会を設けています。研修資料は自由に閲覧できるよう管理して居り、研修参加者による勉強会を実施しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接時に利用者、御家族が納得、理解が出来るよう重要事項説明書、契約書内容の十分な説明を行い必要に応じて担当ケアマネに説明、情報提供を行い御理解を図っています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御利用者、御家族との関係が構築できるような一人一人担当職員を決め毎月近況報告書を送りその月の様子等をお知らせしています。御家族の意見、質問、要望等を聞けるよう家族会の実施等で御利用者のケアに繋がっています	家族との面会時や電話で、問いかけている。また、毎月送る近況報告書に要望欄を設けている。家族からは、本人の経験や趣味を活かせるようにとの要望があり、それらを受け入れ支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月一回の職員会議、ユニット毎のカンファレンスなど全職員が日頃思う疑問、意見、要望が話し合える場を設け、よりよいケアが提供出来るよう質の向上を目指しています	毎月の職員会議(カンファレンス等)で、意見・提案を聞いている。会議には、各人一つ以上の課題を提出し、解決策を全員で検討を加え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自がやりがい意欲を持ち向上できるよう研修への参加と、役割担当等での努力にはねぎらいの気持ちを皆が持てるよう働きかけています。職員同士十分なコミュニケーションが図れるような職場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人、中堅、リーダー、管理者コースで研修を開催しています。又、外部教育システムの参加の奨励、介護福祉士等受験対策の受講講座等行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一回、向上委員会を開催しサービスの提供の向上に繋がるよう情報提供や学習会を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に当たって御本人、御家族、担当ケアマネからの情報を基にサービスを提供しながら積極的に御本人との関わりを持ち生活歴、家族構成、心身の状態等可能な限り情報収集し御本人が不安なく安心して頂けるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族へのねぎらいの気持ちを持ち御家族しか解らない御利用者の性格、家族関係、生活史、認知症状など出来る限り丁寧に伺い共感共有し信頼関係の構築に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者、御家族の立場に立ち状況の把握と確認をしながら「その時」を見極め、今一番何が必要な状況であるか双方に情報提供と助言、対応をしています。又、必要に応じ上司に相談し安心して頂けるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は同じ生活空間に於いて御利用者と一緒に掃除や洗濯、調理の下ごしらえ等をしながら人生の先輩として料理の仕方や季節の野菜の作り方等、参考意見や教えを頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には緊急以外の定期受診の対応、季節に応じた身の周りの物品、ホームでの行事の参加、年二回の家族会、介護計画担当者会議等職員との関わりの機会を作りその都度必要に応じて報告、相談をしながら御利用者への対応に繋げています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の公園、スーパーへの買い物、地域の人が集まる「ふれあい会館」等へ出向き、知人、友人との交流に繋がるよう心掛けています	馴染みの公園や店での買い物、また学校の運動会やふれあい会館へ出かけ、知人・友人に出会える場を支援している。家族の協力で、帰宅や誕生日外出で、馴染みの関係を続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御利用者には体調等確認出来る限りホールで過ごして頂き皆さんで協力しながら季節ごとの制作を行ったり皆さん一緒に楽しめるゲーム等を提供し御利用者同士の関わりの時間を設けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院される場合は病院のソーシャルワーカーとの連携、情報収集をとっています。又、法人内の施設入所の場合に於いてもエリア長、各相談員との月一回の連携会議に情報収集し継続的関わりを持っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者との関わりの際に、御本人の思いや意向を聞き利用者個々に合った制作、行事の参加など行い、御家族からの意向も聞き入れその方の状況と希望に合わせた対応をしています	日々の関わりの中で、言動や表情から思いや意向を把握している。本人の好きなこと、やりたいこと、熱中できるものなど、自己決定を尊重し、生き生きと暮らせるように支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者の生活歴については、事前面接時に御家族、担当ケアマネより十分に情報収集し、ホームでは会話を通して把握に努めその人らしい生活を送って頂けるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に観察して行く上で体調の変化を見逃さず異常時には訪問看護師と連携しながら健康管理に努めています。個々の能力に合わせ出来る事を見つけ出しその方の能力の維持、向上に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意向を第一とし御家族の都合を確認し話し合いの場を設ける他、毎月の近況報告書に御本人の様子等の情報提供と御家族への依頼、協力をお願いをする等、御利用者が満足出来る暮らしが送れる介護計画の作成に繋がっています	担当職員を中心に、本人・家族の意向を確認している。さらに、全体会議で、アセスメントを行い、満足した生活が送れるように、介護計画に反映させている。また、3ヶ月ごとの定時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録から日々の様子、プランの実施状況をそれぞれの職員がいつでも確認出来るシステムと毎月ユニット毎に行われているカンファレンスに於いて職員全員が共通したケアが提供出来、それぞれに意見等が出せる場を設けています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせて御本人、御家族の要望に沿うよう他事業所の特徴を活かしながら他事業所との連携、交流を図っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会、育成会との交流や多数のボランティアの受け入れによりそれぞれが楽しむことが出来、消防署指導の消防訓練を行い安心して安全に暮らせるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先にかんしては、御本人、御家族の希望を基本とし御家族に受診をお願いしていますが、御家族の都合により往診の受け入れをしています。御本人の健康状態に変化が見られた際には、訪問看護師より主治医への情報提供を行っています	個々に、これまでのかかりつけ医を継続している。症状に応じて、往診を受ける人もいるが、原則、家族が通院を担っている。週に1回の訪問看護があり、それぞれの担当医と細かに連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師への情報提供や状態に応じて迅速な対応が出来るよう訪問看護師との連携により疾病の重症化が防止できるよう御利用者の健康管理に努めています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の地域連携室との連携により御利用者の入院時の様子、退院の見込みなど情報や相談が出来るよう努めています。エリア会議、ネットワーク会議に参加して頂く事でソーシャルワーカーとの関係作りを行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御利用者の体調の変化が見られた時は、御家族、主治医との連携を取りながら今後の対応方針や緊急時の対応、相談等支援しています。又、御家族の意向も踏まえエリア長に相談しながら希望に添えるよう職員が情報の把握をし訪問看護師と連携を取りながら支援しています	重度化に伴い、主治医、家族と連携を取りながら、対応方針を話し合っている。常時、医療処置がなく、自然な老化は、家族の協力を下に、終末期の支援体制を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを各職員が把握し対応が出来るようにしており、定期的に消防主催の救急救命講習に参加し全職員が実践力が付くようにしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で消防署主催の避難訓練の参加を取り組み、地域の協力が得られるよう働きかけています。夜間を想定した訓練では法人内の近隣に在住する職員の協力も含め実施しています	消防署の指導を受け、年に2回の災害訓練を行っている。夜間想定や避難誘導、初期消火、通報などを運営推進会議と同日に実施し、近隣とも相互協力で合意している。連絡は、関係者へ、メール回線でつながっている。	備蓄は、他の災害事例を参考に、最小限の確保に期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者個々の生活歴を把握し個別ケアを実施し自己決定につながるよう支援しています。一人一人のペースに合わせ御本人の意思を尊重しながらその方に合ったケアを提供しています	一人ひとりのペースや自己決定を尊重し、強制や抑制感を与えないような言葉をかけている。また、生活歴や習慣に配慮し、自尊心を損ねないように対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けの際には、御本人の意思を尊重出来るような話しかけをし御本人の要望や思いを聞き入れながら出来る限り自己決定して頂いています	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御利用者の個々のペースを優先し本人の要望等の選択の確認、意志の確認、身体状況に合わせた対応をしています	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の身だしなみは本人の選択を優先し、重ね着等適した衣類の更衣が不十分な時は一緒に衣類を選んでいきます。移動理美容を利用されて見える方に於いては染め、顔剃り等御利用者の要望に沿って行っています	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者に好みを聞いたり、一緒に下ごしらえ、配膳、盛り付け、片付け等、出来る方と一緒にしています。手作り昼食、手作りおやつ等の行事や又、外食を楽しむ計画を立て実施しています	職員と一緒に、食材の買い物や準備、配膳と片付けを行っている。旬の食材を採り入れ、家庭的な味付けが喜ばれている。職員も一緒に同じものを食べ、食欲が増すように支援をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養摂取は本部より管理栄養士の献立を基に毎食バランスのとれた食事を提供しています。水分はいつでも摂れるよう絶えずホールにお茶とコップを用意しています。夜間は利用者の要望の有る方に於いて居室に準備しています	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、御利用者の身体能力に合わせ、口腔ケアを行っています。義歯の方は洗浄剤を使い衛生に努めています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し職員間が情報の共有が出来るよう記録を残し、その方に合った対応とトイレでの排泄を基本として自立支援に繋がるよう一人一人支援しています	個々の状態に応じ、適宜、声をかけ、トイレへ誘導している。特に、配慮がある人は、早めの対応で失敗を減らしている。一人ひとりの習慣や時間間隔を把握することで、おむつの使用が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士による毎食野菜を多く取り入れた献立の提供と食事の他、午前、午後、入浴後、就寝前などの水分補給を行っています。訪問看護師による腸の蠕動運動の確認、便秘の方には主治医に相談する等、予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	御利用者には週三回の入浴を基本としていますが、体調や希望に沿って入浴をさせて頂いています。一人一人がゆっくり入浴が出来るよう、又、心疾患のある方には湯温等に注意し負担がかからないよう入浴支援を行っています	週に3回の入浴を基本にしている。体調によっては、シャワー浴に切り替えている。拒む人には、あからさまな誘導を避けるように工夫をしている。入浴時間は、本人のペースに合わせ、ゆったり楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体の調子により居室で過ごされる方や一人一人の生活リズムを尊重し御利用者が快適な暮らしが出来るよう支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者の薬の処方箋はいつでも直ぐに確認出来るようファイルに保管しています。又、処方箋の変更があった時には申し送り、個々のフェイスシートの記録、個人記録への入力など職員が情報の共有が出来るよう努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で一人一人洗濯干し、モップ掛け等、能力に合った役割を持って頂きその方の意欲に繋がるよう行って頂いています。又、その方の趣味等楽しみにつながる制作や散歩の参加、ボランティアとの交流等気分転換に繋がるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、外食行事の計画や毎日の散歩、買い物の同行、誕生日外出等、外出の機会を設けています。本部より公用車を借り、御利用者の希望を聞きながらドライブや地域のイベントの参加など行っています	周辺に散歩コースがあり、日課として外出している。買い物や喫茶店、地域の展示会に出かけたり、郊外の公園や季節の花見など、多様な外出を支援している。	

岐阜県 さわやかグループホーム本郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人、御家族の希望により現金を所持して見える方は買い物の同行時や外出行事の時等に、おやつ等希望に応じて購入して見えます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が電話等を希望された時は御家族の了承の下、状況に応じて電話を掛けて頂いたり、手紙のやり取りの際にも、いつでも手紙を書いて頂けるよう、はがきの用意をしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の清掃、整理整頓、窓からは季節の花、野菜作りなどで季節感を持って頂き、テーブル、居室内に花を飾り雰囲気作りをしています。季節により室温、湿度の管理を行い御利用者に心地良く過ごして頂き、又、清潔感を感じて頂けるよう環境整備を行っています	玄関や共用の場には、季節の花や観葉植物を飾っている。壁には、生活ぶりの写真、貼り絵の作品などが目線にある。窓越しに農林高校生が花を育てる実習ハウスが並び、栽培の様子が見える。恵まれた生活空間で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間では御利用者が御自分で座りたい所に座る等ご自分の居場所を持ったり、気の合う御利用者同士が楽しく会話の出来る場があり、外の景色が眺めれるよう玄関先にベンチを設置する等、思い思いの場を提供しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居室にはベット以外、御利用者の使い慣れた家具等を持って来て頂くよう御家族にお話をさせて頂き、持ち込みの制限はしていません。御本人が生活しやすいよう御家族と相談しながら配置等もして頂いています	居室には、洗面台やクローゼットを備えて、利便性がある。使い慣れた家具や仏壇などの持ち込みもあり、家族の写真や誕生日の色紙に癒しと安心を感じている。自分で季節の花を掛け、居心地よく過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内の整理整頓、環境を整える事により自立歩行等、日常生活動作の自立支援に繋がっています。その日の献立、その月の行事なども掲示し楽しみ意欲の持てる生活に繋がっています		